

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4373000423 | | |
| 法人名 | 医療法人 新清会 | | |
| 事業所名 | グループホーム むつみ荘 | | |
| 所在地 | 熊本県葦北郡芦北町大字佐敷371-6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年1月14日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年4月3日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あすなろ福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年2月27日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

むつみ荘は、芦北インターより車で約2分の場所にあります。母体である篠原医院の横に位置し、医院と連携を図りながら利用者様と共に暮らしていく中で安心感の持てる生活の場となっています。天気の良い日には散歩に出かけます。また、地域の行事など積極的に出向き参加する事でたくさんの方々と顔見知りになり優しくふれあって頂きグループホームをご理解の上色々ご協力頂いています。利用者様には、出来る事は何でもやって頂いています。芦北は、海の幸・山の幸が豊富な所です。新鮮な食材を使用し、利用者様には大変喜んで頂ける美味しい食事を提供しております。地域に根ざし、地域の協力を頂き、住みよい暮らしが出来るよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在のホームは介護度が4、5と言う方が中心といった厳しい中にあるが、いつ訪れても変わらずぬるぬる光景に職員の心遣いと介護力が理念の実践そのものとして表出し温かみのある支援が継続されている。その日常は「洗濯物たたまますかー」の職員の声に「今、休憩たい」と入居者が返したり、「職員の方とまるで親子のごたるですね」の来訪者の言葉に「そうたい親子たい」と言う返事からも窺い知ることが出来る。職員と入居者は通いなれた母体医院までの道のりを散歩道としながら、入居者の状態を知り尽くした医師による医療支援を受けており、医師は運営者としてもホームの会議に毎回参加している。既存の建物を利用したホーム内は決して使い勝手が良いとは言えないが、職員と入居者のあうんの呼吸がそのすべてを払拭するほど深いつながりで結ばれている。昨年より行政と連携し居室への防火壁の工事や全館へのスプリンクラーの設置が実現し、安全対策への取り組みが更に前進しており今後の運営が益々期待される所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域との関係性を重視した理念を大切にしている。又、むつみ荘独自の理念を掲げ地域との関係を大切にしている。 | 職員は開所以来ホームの真髄としている地域との人々との変わらぬ関係継続を入居者と共に展開している。退職に伴う職員採用時には法人事務長がホームの思いや流れを理解し、入居者に優しく寄り添うことの出来る人材を採用の基本として面接に応じ、理念を基にホームの取り組みを説明している。推進会議や地域へ向けても機会あるごとに方針を啓発している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり近隣に住む人たちと触れ合うようにしている他、防災訓練など参加して頂き協力を頂いている。地区の花植え、どんどや、廃品回収なども参加し交流の一貫としている。 | 入居者は散歩や母体受診先に歩いて往復し、近隣の人々と触れ合いながら日常を過ごしている。職員は地元で採れた山菜の下ごしらえや馴染みの料理で入居者の笑顔を引き出し郷土の良さを思い起こしてもらおうよう心を配っている。地域住民との花植えやどんどや、祭りの見学や町文化祭への作品出品など入居者が人々と交流する機会を継続して支援し、避難訓練時の近隣住民の参加協力も実現している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域行事に参加する中で、利用者様への接し方、対応を見ていただき認知症に対する理解を深めるようにしている。また、人材育成の貢献として研修の受け入れも行っている。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームから地域の様子を伺ったりすると昔の様子や現況を話して下さる。質問、意見もたまにあり和気藹々の雰囲気である。 | 行政や消防署、地元代表の協力を得て二ヶ月ごとの定期開催が実践されている。昨年の外部評価を受け、現在は管理者ばかりではなく他の職員も同席し、参加者からも地域情報や消防署から高齢者の自宅での事故例や火の取り扱いなどについて話が交わされている。参加者は隣の部屋で寛ぐ入居者の様子を目にし、ホームの取り組みを毎月の便りで確認して、入居者をより身近に感じながら会議へも積極的に関わっている。 | 今後は、警察署にも声かけし地域の防災などについて意見や実情を話してもらいたいとしている。取り組みを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加して頂き事業所の実情やケアサービスを伝えているが連絡は蜜にとってはいいない。参加される方により、熱心に色々質問もありその都度取り組みを伝えている。 | 推進会議への毎回の参加により行政担当者との情報交換や、書類提出や相談事で役所を訪れている。昨年は行政との連携により一階居室部分への防火壁の工事や全館にスプリンクラーを設置するなど安全対策への取り組みが実現している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は行っていない。施錠は防犯の為にしている。 | 拘束は法人全体で行わないことを前提とし、入職したばかりの職員にもその意識や取り組みを伝えている。母体での研修には職員が必ず参加し内容をホームでふっこうしている。管理者は職員の拘束に対する理解は十分であり、入居者としてしっかり関ることが出来ていると語っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会に参加し、ミーティング等で虐待防止に関する理解浸透や順守に向けて取り組んでいる。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在必要性はないが、研修等に進んで参加し、支援する体制をとっていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 約款書を説明し利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱は設置しているが、未だに殆ど活用されていない。利用料金支払い時、要望、意見をたずねているが特に意見、要望は聞かれない。 | 職員は普段の関わりの中から入居者の意見や要望を引き出し、表現困難な方へは支援の中で、いい表情をされた時を本人の意思表示として大切に受け止め対応している。家族の来所時には意見や提案を聞いているが、感謝の言葉がほとんどであり直接的な意見は上がっていない。遠方の家族へはホーム便りや手紙で入居者の様子を伝え、入居者が電話で会話出来るよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営者と共に毎月会議を行い意見や提案について配慮いただいている。 | 毎月の会議には運営者である医師も参加し、行事予定や入居者の状態を共有して職員が自由に意見を出し合いながら、加湿器の購入や修理箇所の要望にすぐに対応している。法人は職員の資格取得をバックアップし介護職の資格の他、危機管理の充実へ向けた防火管理者の受講を支援している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の資格取得支援は十分に行われている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所内外の勉強会、研修等に参加している。資料等は職員全員閲覧できる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホームブロック会にて勉強会、研修に参加し事例検討を通して同業者の意見や取り組みをケアに活かしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人に一応、伺っているが理解できない場合、再度家族に要望を伺っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | これまでの経緯状況についてゆっくり話を聞き、安心されるように十分な説明を行うよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所希望を前提としての相談には応じているが、他のサービス利用の支援は行ってはいない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 支援する側、される側という意識を持たずお互い協働しながら和やかな生活ができるように働きかけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日々の暮らしの出来事や気付きの情報を共有し本人を支えていくために家族と同じような思いで支援していることを伝える。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援につとめている。 | 故郷訪問を行っていたが、重度化に伴い外出の機会がなかなか取れない。出来る方はぜひ故郷訪問したい。 | 入居者にとって母体への受診への往復も馴染みのものであり、職員に支えられながら四季の移り変わりも同時に楽しんでいる。家族と迎える米寿の祝いや、個々の面会の時間を支援し、餅つきや地元の祭りなど入居者に懐かしい行事を計画し実践している。入居者の馴染みの食材や料理を通じた関りもホームのモットーとする所であり、引き続き支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日中は皆さん居間で過ごされ孤立することはない。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 全く断ち切る事はないが、相談があった場合には相談にのる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の日々の行動や表情からくみ取り関わる中で、把握している。意思疎通困難な方は家族から情報を得ている。 | 入居者が重度化する中にも職員は慌てず、一日一日をゆつくりと関りながら個々の思いを引き出しコミュニケーションが取り図らい方にはその表情や家族からの情報から汲み取り支援に反映させている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族、関係者などから聞き取るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者一人一人の生活リズム理解をすると共に行動や小さな動作から把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の要望や思いを聞き職員全員で毎月ケアカンファレンスを行い無理のない介護計画を作成している。 | 入居者の担当者を職員に割り振ってはいるが、全職員がすべての入居者に関り日頃の発言や様子を毎月のカンファレンスに上げながら、入居者の思いをプランに繋げている。日々の生活の中から入居者がどう過ごしたいか何をしたいかを共有し、状態を見ながら早めに対応することも心がけている。計画作成担当者は家族へ分かりやすい表現でプランを説明し、同時に遠慮なく話してもらうよう伝えている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員の気づきや利用者の状態変化は、個々の記録に記載し、申し送りノートにも記載情報共有を徹底し計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議にて情報交換し地区の行事や町の行事に参加している。(花植え、七夕祭り、文化祭、どんどやなど) | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族が希望するかかりつけ医、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっている。不可能な時は職員が代行している。 | これまでのかかりつけ医を継続して支援することとしているが、現在は高齢化や緊急時対応の面から家族の希望により全員が協力医での受診となっている。週一回の訪問介護による健康チェック後は、医師へ結果報告が行われている。また、職員も家族との健康面での報告を小まめに行い家族の安心に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたことがあれば、直ちに訪看、看護職に報告し、適切な医療に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には、医療機関に情報を提供し、職員が頻繁に見舞い家族とも回復状況等情報交換しながら、早期退院支援に結び付けている。現在は該当者なし。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明をおこなっている。看取りについては家族にちよくちよく伺う様になっている。 | 入居開始時にホームの方針(意思確認書)を説明し、意思を確認し、重度化した時点で再確認を行い家族の思いに応えるように努めている。職員は共に過ごした入居者・家族の思いに心を込めてホームに出来るギリギリのところまで支えていきたいと語っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会にはすべての職員が参加、体験、習得するようにしている。夜勤時は緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署、地域の方々の協力を経て避難訓練を行い、消火器の使い方などの訓練も行っている。夜間想定呼び出し訓練、夜間想定非難訓練実施済み。今後も夜間想定実施予定。 | 消防署立会による夜間を想定した近隣者の参加による訓練を重視し実施している。職員も夜間の収集には時間を要することから、近隣者の協力は大切であることを十分認識し、日頃から近隣者との関係構築に努めている。地震・津波の自然災害で、法人災害対策委員会を立ち上げ二ヶ月に一回各事業所代表者が集まり、備蓄をはじめ避難場所等について話し合いを行っている。 | ホームは日々の安全チェック屋防火管理者四名の配置など安全意識の高さが窺われる。今後も火災・自然災害について法人と連携しながら入居者の安全管理に尽力されることに期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人を傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 | 接遇に関して法人代表者からの指導や、業務の中でも方言を使いながらも入居者に失礼な対応や言葉にならないよう職員間で申し合わせている。排泄用品交換時も周りの入居者に声かけを行い、衝立を使用したり、食事介助も料理を説明しながら勧めるなど職員の配慮が確認された。広報誌の写真掲載など個人情報については家族から了承を得て使用している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者に合わせて声かけ意思表示困難な方には、表情、言動から汲み取っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない、一人一人の体調に配慮し柔軟に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 生活習慣に合わせた支援、行事、外出時はおしゃれを楽しんでもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 以前は同じテーブルで職員と利用者が一緒に食事出来ていたが重度化に伴い食事全介助の方3名にて、時間もかかり一緒に食事を摂る事は困難である。手伝いは出来る方約1名は台拭き、茶碗洗いなど、たまにやってもらっている。 | 献立はその日の食材を見て決定し、新鮮な食材で季節感のある料理が提供されている。一人ひとりのえんげ状態に応じた食携帯で職員の声かけや見守り・介助が行われている。地域に伝わる万十でお盆を迎える慣習を大切に取り組んでいる。また、地元芦北牛の焼肉会やクリスマス会などイベント・行事食にも力を入れて楽しい食事支援に繋げている。。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの体調と一日の摂取量、水分量もチェック把握している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分でできる方は声かけ見守りをし、利用者によってはガーゼを使用し肺炎の防止につとめている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿意のない利用者には定時トイレ誘導、自尊心に配慮し身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助など行っている。 | 失敗のないことが尊厳に繋がるとし、自立の方の継続や声かけ・誘導、殆どを休んだ状態で過ごされる方へのオムツではなくリハビリの使用など、個々に応じた排泄用品の組み合わせを工夫している。排泄用品交換の際もスクリーンを手際よく設置し、職員の明るい声かけに、ホームの日常を窺うことができる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分補給には十分気をつけ、なるべく繊維質の多い食材を取り入れ、身体を動かすことを心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの気持ち習慣に合わせた入浴支援ではないが、声掛けを行い毎日入浴は行っている。 | 以前は毎日の入浴支援を基本としていたが、現在は入居者の皮膚や身体的負担も考慮し一日おきの入浴としている。二名の職員での介助や拒否の方への工夫などホーム職員の技術により安全で気持ちの良い入浴が支援されている。また、ゆず風呂や入浴剤を使用しながらお風呂を楽しめるよう努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努力している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。また服薬時はきちんと服用できているか確認している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意分野で一人一人の力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 重度化に伴い皆さん全員とは行かないが、心身の活性につながるよう日常的に散歩に出かけている。また、外食や弁当をもってドライブに出かけていたが、現在は困難になっている。 | 重度化に伴って以前のように一人ひとりの希望や全員で外出をする機会は困難な状況であるが、近隣の散歩や家族の協力も得ながら外出支援にあたっている。外出が困難の方でも、臥床し食事や二階から外を眺めるなどメリハリのある生活に力と心を注いでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理が困難な方が主であり、家族の了解を得て職員が管理をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 主に電話の取り次ぎを行って、毎年年賀状や暑中見舞いを出す支援はしている。 (本人様写真入り) | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間と台所はつながっており、生活感あふれ五感を刺激している。居間には畳にソファを置き、快く過ごせるようにしている。また、花や飾りなどで季節感を出している。 | 季節の花や飾り物、音楽が流れる畳の間や台所、廊下は入居者が身体状況に応じていつも変わらず、穏やかに過ごせるよう心配りがされている。既存の建物を改修したホームはハードの面では決して使い勝手が良いとは言いが、職員のチームワークと笑顔で、見事に居心地のよい共用空間になっている。 | トイレや浴室も職員の連携で入居者支援にあたられており、備品の設置について場所や工夫を行う事でスッキリとした空間になると思われる。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関ホールには椅子を設置思い思い安全に過ごせるようにしている。2階廊下にも椅子を設置し、約2名の利用者様の居場所となっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 備え付けのタンスがあり、居室が狭いため家族からの持ち込みはあまりない。 | 日中の殆どを二階の共有スペースで過ごされるため、居室は就寝のみの利用状況である。居室の広さから持ち込みは限られているが、馴染みの小物やベッドを持ち込まれている方もおられる。昼間はベッドにクロスをかけ整頓を行い、夜間気持ちよく使用できるように努めている。また、今年度安全対策として防火壁工事が施された。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の身体状況に合わせ、昇降機の設置やひとりひとりのわかるちからをみきわめ、必要な目印を付け、物の配置に配慮している。 | | |